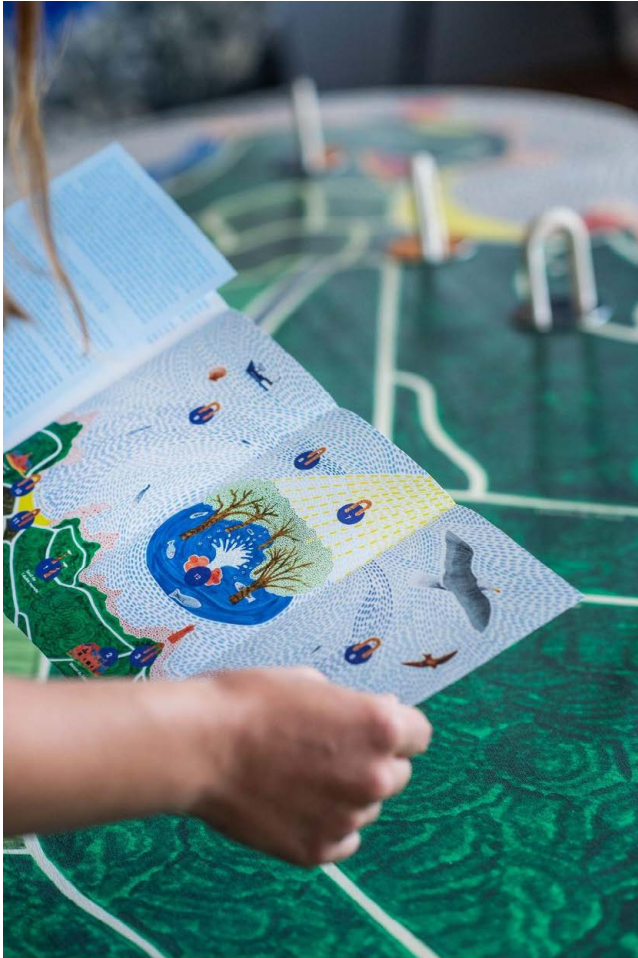


第二回 国際海洋環境デザイン会議

「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」 エキシビションの展示内容のご案内



©Anne-Emmanuelle Thion



©MASAAKI INOUE



©Nao Tsuda



海洋教育とデザインを融合しながら実践的なプログラムを提供している一般社団法人3710Lab（代表：田口康大）は、日本財団との共同開催で2023年9月29日（金）～10月9日（月・祝）まで、六本木のアクシスギャラリーにて「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」をテーマに、「第二回 国際海洋環境デザイン会議」及びエキシビションを開催します。

地球の70%以上を覆う広大な海。あまりにも広く大きな海が存在ゆえ、私たちはその全貌をいまだ捉えることができません。それどころか、高度に都市化する暮らしの中で海とのつながりはさらに遠のいてしまっています。その現状を「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」と位置付け、海の可能性や魅力を探求することから深刻化する海洋問題まで、さまざまな論点と視点を「デザイン」の座標を持って向き合っていきます。

コンテンポラリーデザインスタジオ、we+による会場構成のもと、多様な海の世界を表現する海洋環境デザインのプロダクトや建築のパネル展示の他、自らが海になり感覚を取り入れる体感型の展示や、海洋環境デザインワークショップで立ち上がった作品などが並びます。海を知り、海を感じ、海と向き合う展示をぜひお楽しみください。

掲載に関するお問合せ先：HOW INC.

MAIL. pressrelease@how-pr.co.jp TEL. 03-5414-6405

お客さまお問合せ先：3710Lab

<https://3710lab.com/>

MAIL. info@3710lab.com

TEL. 090-1997-6903 (担当・田口)

開催概要



会議名称

第二回 国際海洋環境デザイン会議

2nd International Conference on Design for Ocean Environments

エキシビジョン名称

第二回 国際海洋環境デザイン会議 「OCEAN BLINDNESS ー私たちは海を知らないー」展

会期 2023年9月29日（金）～10月9日（月・祝）

開館時間 10:00～20:00（9月29日は16:30～21:00、最終日10月9日は15:00まで）

会場 アクシスギャラリー 東京都港区六本木5-17-1 AXISビル4F <https://center.axisinc.co.jp/>

入場 無料

主催 3710Lab（みなとラボ）

共催 日本財団

特別協力 THE DESIGN SCIENCE FOUNDATION

協力 アクシスギャラリー、アルテック、クリスチャン・フィッシュバッハ、甲子化学工業、スカンジナビアン・リビング、田島ルーフィング、DeVorm、ニュートラルワークス。（ゴールドウイン）、博展、ハーマンミラー、フォルボ・フロアリングB.V.、ポーネルンド、三菱鉛筆、武蔵野美術大学

会場構成：we+

グラフィック製作：TAKAIYAMA inc.

スタイリング：中田由美

展示内容

【3710Labが実施してきたプロジェクトより】



©Masaaki Inoue

海洋環境デザインワークショップ 深澤直人「私の思い描く海」成果物

10名のデザイナーが、7月から海と向き合い生みだした成果物を展示します。9月29日（金）には公開ワークショップとして成果物を発表しながらそれぞれの「海」について話し合います。

参照リンク：海洋環境デザインワークショップ：深澤直人

<https://3710lab.com/contents/5812/>



©Masaaki Inoue

海洋環境デザインワークショップ we+ 「Materials from the Ocean」

広島県呉市・江田島市の海岸をめぐり、さまざまな素材を採取。広島ならではの漁業や環境、郷土資料からインスピレーションを得て、加工と実験を繰り返しマテリアルの新たな可能性を提示します。9月30日（土）にはトークも開催。

参照リンク：海洋環境デザインワークショップ：we+

<https://3710lab.com/contents/5813/>



海洋環境デザインワークショップ dot architects+contact Gonzo 「The Storm」

ドットアーキテクト+コンタクト・ゴンゾが想像でつくりだした波、海を展示。9月30日（土）には、参加者とともに海を再現する参加型のワークショップを開催。ワークショップ実施後の会期中はどなたでもお楽しみいただけます。参加申込受付中！ <https://bit.ly/3ZKat6p>



海洋環境デザインワークショップ 本多沙映「Diving Into Ama Culture」

海と生きる海女が使う道具「スカリ」。実際に使用されているスカリを展示。10月1日（日）には、スカリをモチーフに自分と海をつなぐ道具をつくる参加型のワークショップも開催し、トークでは今年春まで三重県鳥羽市の石鏡漁港で海女をされていた佐藤千裕さんも登壇します。

参加申込受付中！ <https://bit.ly/3ZKat6p>



©Nao Tsuda

海洋教育ワークショップ

津田直「Starting from Lines Drawn by Nature」

海と人、その関わりの原点を探るため、北海道・オホーツク海沿岸でフィールドワークを実施。海、森、川、遺跡を訪れ、いにしえの人々が暮らした地に立ち、海を眺め、立ち現れてきた新たな視点。過去に引かれたラインの上に立つことで見えてきたつづく旅路の現在地を提示するスモールエキシビション。10月7日（土）には、写真家・津田直とみなとラボ代表の田口康大によるトーク「Oceanscape As Dialogue」を開催します。

参加申込受付中！ <https://bit.ly/3ZKat6p>

展示内容

【3710Labが実施してきたプロジェクトより】



ZaBoonプロジェクト

Foraged Colors (吉勝制作所：吉田勝信、稲葉鮎子、YUIKOUBOU) 「Foraging 'Ocean' Colors」

環境から素材を見出す「民俗知」を出発点として採集物や食物などから「顔料」や「メディウム」をつくり、工芸的な技術を手がかりに現代の産業・量産技術へつなぐための技術開発やリサーチに取り組むプロジェクト。本展では、「海」で出会った「色」を紹介します。

ZaBoonプロジェクト

Gak Sato 「detritus」

海底調査中の海中の音と映像をクローズアップして、そこで聞かれるソナー音や、ある一定の音程を拾いあげた映像作品をご覧ください。

【海外デザイナーによるプロジェクトの展示】



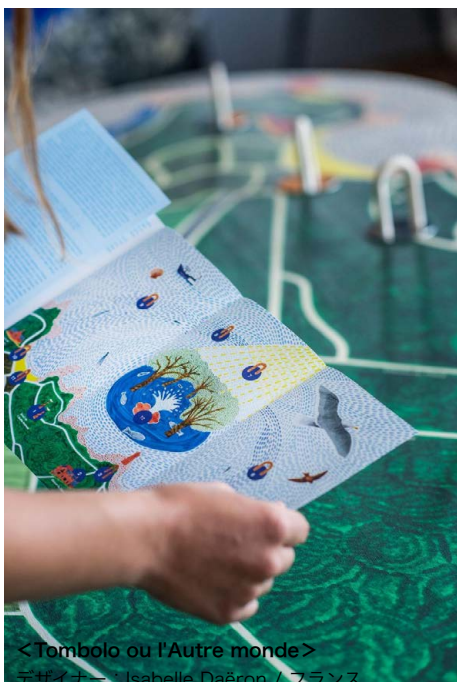
From Finland

COMPANY(Aamu Song & Johan Olin) 「Sea Monster」

ヘルシンキを拠点にするデザインデュオ、COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)が手がけた「Sea Monster」をドローイングとともに展示。世界の貝殻を素材に生き生きとした海の生き物になれる特別なお面です。10月1日（日）には、「Sea Monster」を製作するワークショップとトークを開催。参加申込受付中！ <https://bit.ly/3ZKat6p>

<Sea Monster>

デザイナー：COMPANY (Aamu Song & Johan Olin) /フィンランド



From FRANCE

Isabelle Daëron 「Tombolo ou l'Autre monde」

フランス・パリを拠点にするデザイナー、イザベル・ダエロンによるフランス北西部ブルターニュのペロス=ギレックに完成したプロジェクトを写真パネルで紹介。ケルト神話の物語をもとに、美しい海岸ブルマナックのためにサウンド・トレイルや散歩道の仲介役となるオブジェ、潮見時計などをデザインしています。

<Tombolo ou l'Autre monde>

デザイナー：Isabelle Daëron / フランス

フランス文化省「モンド・ヌーヴォー・プログラム」の一環として実施されたプロジェクト

Photo by Anne-Emmanuelle Thion

【海に向き合うプロダクト・建築のパネル展示】

プロダクトからは廃棄漁網をマテリアルリサイクルした家具や照明、カーテン、ニット、文房具などをはじめ、破棄される水産系廃棄物のホタテの貝殻を素材にしたヘルメット、宇宙から撮影した海の色を表現したクレヨンなど。また建築では海の中を覗くことができるレストランや、海の上に生まれる街まで。海そして海洋環境に向き合う世界各国のプロダクトの実物や、海を違った角度や視点から捉えるヒントになる海の建築をご覧ください。



<Mater, Ocean Dining Chair>

デザイナー：Nanna and Jørgen Ditzel / デンマーク
提供：スカンジナビアン・リビング



<Light Soy, Heliograf>

デザイナー：Heliograf / オーストラリア

プロダクト展示品一覧

- ・「アーロンチェア」ハーマンミラー
- ・「Light Soy」ヘリオグラフ
- ・「BENU SOUL14646」クリスチャン・フィッシュバツハ
- ・「HOTAMET」甲子化学工業
- ・「Blue Marineシリーズ」ダントーイ（ポーネランド）
- ・「海のクレヨン」宇宙実業社スカパーJSAT
- ・「エコ・ラッピン」Biopac（モダナー）
- ・「ジェットストリーム 海洋プラスチック」三菱鉛筆
- ・「FISHAND/」ニュートラルワークス。（ゴールドウイン）
- ・「OCEAN CHAIR & TABLE」Mater（スカンジナビアンリビング）

建築のパネル展示一覧

「UNDER」

ノルウェーのデザイン事務所Snøhetta（スノヘッタ）が設計した、海洋生物研究センターとしても機能するヨーロッパ初の海中レストラン。<https://www.snohetta.com/projects/under>

「OCEANIX BUSAN」

・デンマークの建築家ビャルケ・インゲルス率いる
ビャルケ・インゲルス・グループ（BIG）とOCEANIXによる
気候変動に影響されない持続可能な世界初の水上コミュニティ。
<https://big.dk/projects/oceanix-city-6399>



<Oceanix City>

建築家：ビャルケ・インゲルス・グループ（BIG）/韓国
Image by Oceanix and BIG-Bjarke Ingels Group

【海と繋がる暮らしの空間：Ocean On Land Living Room展示】

スタイリスト中田由美による、見て触って、海を知り、海を感じる、リビング空間が登場。

ミニマルかつソフトなデザインが目を引くソファの中材は、デンマーク沿岸で採取された海藻。贅沢な肌触りのラグは、ゴーストギアと呼ばれる海に流出した漁網などの漁具をリサイクルした再生素材。海に流れ出てしまったプラスチックごみの再生素材から生まれたスピーカーやテーブルなど。一見それとは気がつかないけれど、暮らしの中で海と繋がるインテリアを体感してください。

SCHEDULE および会議プログラム、登壇者のご案内

9月29日 (金)

17:45～ **開会挨拶 (一般社団法人3710Lab代表：田口康大)**

18:00～ **日本財団常務理事：海野光行 対談「海と人との関わりをデザインする」**

「次世代に豊かな海を引き継ぐ」ために多様な事業を展開する日本財団。新しい時代を創るプロジェクト開発や戦略的パートナーシップの構築、社会課題に向き合うための取り組みの工夫、海洋とデザインとのつながりについて話します。

19:00～ **深澤直人による公開ワークショップ「私の思い描く海」**

この夏、全3回の日程で行っているデザイナーを対象にした海洋環境デザインワークショップのDay3を公開実施します。プロダクトデザイナーの深澤直人とともに、参加者それぞれが思い描いた「海」のデザインが完成。成果物を発表し、その「海」について話し合います。

9月30日 (土)

13:00～ **ドットアーキテクト+コンタクト・ゴンゾによるトーク&ワークショップ「The Storm」**

作品制作についてのレクチャーの後、来場者の皆さんと身体を使って「海」をつくりだします。私たち自身が海を想像して波をつくることはどのような体験をもたらすか。六本木に「海」が現れます。ワークショップへの参加は事前申込制、定員15名。※参加受付中

15:00～ **we+ワークショップ実施報告「Materials From The Ocean」**

we+と学生2名が広島県呉市・江田島市の海岸をめぐり、さまざまな素材を採取。広島ならではの漁業や環境、郷土資料からインスピレーションを得て加工と実験を繰り返し、マテリアルの新たな可能性を検証しています。

15:45～ **倉本 仁による今秋実施予定のワークショップ**

「The Ocean Camping—海から立ち上がる形—」に向けたクロストーク

デザインを学ぶ学生、若いクリエイターたちと鹿児島県の離島、加計呂麻島におけるデザインキャンプで実施予定のワークショップ。先行リサーチの過程から見えてくる、各クリエイターの海に関する思考をトレードするトークセッションを行います。

16:30～ **we+、倉本 仁、ドットアーキテクト、コンタクト・ゴンゾによる**

トークディスカッション「海洋環境デザインはどう形作られるか？」

海洋に向き合うクリエイターの育成を目指し行われる海洋環境デザインワークショップ。海と創作をつなぐ上で何が大事になるのでしょうか。ワークショップがどのように実施された／るのかについての話を聞きながら、海洋環境デザインのエッセンスを探ります。

10月1日 (日)

13:00～ **COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)によるトーク&ワークショップ「Sea Shell Workshop」**

ヘルシンキを拠点にするデザインデュオ、COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)が、世界の貝殻や海藻を素材に、生き生きとした海の生き物になれる特別なお面を製作するワークショップです。30分程度のトークもワークショップも見学いただけますが、ワークショップの参加は事前申込制、定員10名。※参加受付中

15:30～ **本多沙映によるトーク&ワークショップ「Diving Into Ama Culture —海女文化に学ぶ—」**

伊勢志摩でリサーチプロジェクトを進めてきたデザイナーの本多沙映は、海女が使う道具、スカリにフォーカス。既製品を組み込みながら、各々自分らしいスカリを作る海女の海の知恵をヒントに、自分と海をつなぐ道具を作ります。トークもワークショップも見学いただけますが、ワークショップの参加は事前申込制、定員10名。※参加受付中

17:30～ **博展とwe+によるクロストーク 「仮設空間の装飾におけるサステナビリティと海洋資源の可能性」**

本展の会場構成を担当したwe+と博展によるクロストーク。博展からはサステナビリティを推進する白川陽一と鈴木亮介が参加し、資源循環や環境負荷の低減を踏まえたイベント装飾実現に向けた取り組みから見た課題や考察を出発点に、海洋資源や海洋ゴミなどのイベント装飾活用の可能性を探ります。

10月2日（月）～10月6日（金）

期間中、トム・ディクソンやGOMI DESIGNによるオンライントークを開催予定。

10月7日（土）

13:30～ 全体ディスカッション「海洋環境に向き合うデザインのアイデア」

会議とエキシビションを振り返りながら、あらためて私たちは海について何を知り、知らないのか。ゲストによる話題提供をきっかけにしながら、参加者とともにOCEAN BLINDNESSについての考えを深め、これからの海洋環境デザインのアイデアを描きます。

話題提供者：監物ゆい子（JAMSTEC）、長井裕季子（JAMSTEC）、大坪岳人（NEUTRALWORKS.）

16:00～ 写真家・津田 直と3710Lab代表・田口康大によるトーク「Oceanscape As Dialogue」

写真家・津田 直とともに、海と人、その関わりを原点を探る。我々は、フィールドワークを北海道・オホーツク海沿岸で実施。海、森、川、遺跡を訪れ、いにしえの人々が暮らした地に立ち、海を眺めました。過去に引かれたラインの上に立つことで見えてくる風景があります。この先、そのラインをどう現在へと繋げていくべきか。

国内外のフィールドに赴き、撮影をしてきた写真家・津田 直とみなとラボ代表の田口が語ります。

プログラム参加申し込みについて

- ・ドットアーキテクト+コンタクト・ゴンゾ、COMPANY(Aamu Song & Johan Olin)、本多沙映によるワークショップは事前申し込みが必須となります。（詳細は3P以降をご覧ください）
- ・会場は入場自由となり、展示をご覧いただきながらプログラムへの参加や聴講が可能ですが、座席の準備のため事前申し込みにご協力ください。
- ・参加ご希望の方は、下記申込フォーム（もしくはQRコード）よりお申し込みください。
<https://forms.gle/mCu1J3adcNbzUzeYA>
- ・プログラムについては3710LabのHPでもご覧いただけます。<https://3710lab.com/news/5744/>
- ・参加者多数になった場合は受付を締め切らせていただく場合がございます。



主催：3710Lab（みなとラボ）について <https://3710lab.com/> **INSTAGRAM @3710lab**

法人取得日：2016年10月27日

設立日：2015年4月1日

代表理事：田口 康大/兼任 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任講師

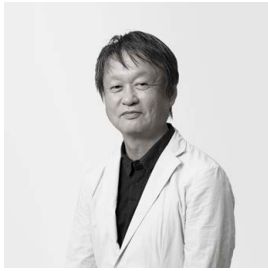
2015年、海洋教育の実践的なプログラムを開発・実施・提供するプラットフォームとして設立。海洋や教育、デザインなどの専門家と協働し、海洋教育とデザインを融合した実践的なプログラムを実施。環境問題や社会課題、地域のコミュニティ課題に向きあっている。

共催：日本財団について

ボートレースの売上金からの交付金を財源として、国境や分野を超えて様々な角度から社会課題解決をサポートしていく、日本最大の社会貢献財団。

市民、企業、NPO、政府、国際機関などさまざまな立場の人々と連携し、年間約1,000団体に対する助成事業や日本財団自ら推進する支援事業（自主事業）を実施することで、国内外の社会課題の解決に挑戦する。海洋・船舶に関する問題の解決、福祉や教育の向上、大規模災害の影響を受けた地域への復興支援や災害対策支援、人道支援や人材育成を通じた国際貢献など、多岐の分野にわたり活動を行う。<https://www.nippon-foundation.or.jp/>

登壇者プロフィール



深澤直人 ふかさわ なおと INSTAGRAM @naoto_fukasawa_design_ltd @the_design_science_foundation
1956年山梨県生まれ。1980年、多摩美術大学プロダクトデザイン学科卒業。同年 セイコーエプソン入社。先行開発のデザインを担当。1989年渡米し、ID Two (現 IDEO サンフランシスコ) 入社。シリコンバレーの産業を中心としたデザインの仕事に7年間従事した後、1996年帰国。IDEO東京オフィスを立ち上げ支社長として日本のデザインコンサルタントのベースをつくる。2003年独立し、NAOTO FUKASAWA DESIGNを設立。現在は、ヨーロッパ、北米、アジアなど世界を代表するブランドのデザインや、日本国内の企業のデザインやコンサルティングを多数手がける。電子精密機器から家具、インテリア、建築に至るまで手がけるデザインの領域は幅広く多岐に渡る。2018年、米ニューヨークのノグチ美術館 (The Noguchi Museum) が創設した第5回「イサム・ノグチ賞」を受賞。多摩美術大学教授。日本民藝館館長。 <https://naotofukasawa.com/> <https://thedesignsciencefoundation.org/>



倉本 仁 くらもと じん INSTAGRAM @jinkuramoto

1976年兵庫県生まれ。家電メーカーのインハウスデザイナーを経て、2008年に東京目黒に『JIN KURAMOTO STUDIO』を開設。プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、アイウェアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わる。素材や材料を直に触りながら機能や構造の試行錯誤を繰り返す実践的な開発プロセスを重視し、プロトタイピングが行われている自身の「スタジオ」は常にインスピレーションと発見に溢れている。iF Design Award、グッドデザイン賞、Red Dot Design Awardなど受賞多数。グッドデザイン賞審査副委員長。 <https://www.jinkuramoto.com>



We+ (林登志也 安藤北斗 関口愛理) ウィープラス INSTAGRAM @weplus.jp

リサーチと実験に立脚した独自の制作・表現手法で、新たな視点と価値をかたちにするコンテンポラリーデザインスタジオ。林登志也と安藤北斗により2013年に設立。日々の研究から生まれた自主プロジェクトを国内外で発表しており、そこから得られた知見を生かした、R&Dやインスタレーション等のコミッションワーク、ブランディング、プロダクト開発、空間デザイン、アートディレクションなど、さまざまな企業や組織のプロジェクトを手がける。Dezeen Awards / Emerging Design Studio of the Year Public Vote (英)、EDIDA / Young Designer of the Year Nominee (伊)、日本空間デザイン賞金賞他受賞多数。作品はドイツのVitra Design Museumなどに収蔵されている。 <https://weplus.jp/>



dot architects ドットアーキテクト INSTAGRAM @dotarchitects.jp

建築家ユニット。大阪・北加賀屋にて、アート、オルタナティブ・メディア、アーカイブ、建築、地域研究、サークル、NPOなど、分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実践するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点にしている。設計だけに留まらず、施工、リサーチプロジェクト、アートプロジェクトなど多岐に渡って活動中。第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 (2016) にて審査員特別表彰を受賞 (日本館出版作家)。第2回小嶋一浩賞受賞。現在のメンバーは家成俊勝、赤代武志、土井亘、宮地敬子、池田藍、勝部涼亮、小林明日香の7人。 <https://dotarchitects.jp/>



contact Gonzo コンタクト・ゴンゾ INSTAGRAM @contact_gonzo

2006年結成。肉体の衝突を起因とする牧歌的崇高論を応用し、即興的なパフォーマンスや映像、写真作品の制作、マガジンの編集などを行う。多くの国際展や芸術祭などに参加し、観客とともに既存の価値観の転覆を計る集団である。現メンバーはNAZE、松見拓也、三ヶ尻敬悟、塚原悠也の4人。独自に製作した構造物でレモンなどの果物を時速100キロで撃つ事ができる。



本多沙映 ほんだ さえ INSTAGRAM @sae_honda

デザイナー/ジュエリーアーティスト。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科非常勤講師。既存の価値体系に詩的なアプローチでゆるやかに疑問を投げかけながら、オルタナティブな美意識を探究。自然と人工物の境界線が曖昧になりつつあるこの世界を俯瞰で見つめながら、新しい価値をかたちにしている。作品はアムステルダム市立美術館、アムステルダム国立美術館、アーネム博物館に永久所蔵されている。 www.sae honda.com



COMPANY /Aamu Song & Johan Olin) カンパニー INSTAGRAM @com_pa_ny

フィンランド、ヘルシンキを拠点に活動するJohan Olin (ヨハン・オリン) とAamu Song (アム・ソン) からなるアート、デザイン・ユニット。ヘルシンキで自身がデザインしたプロダクトを販売するショップ「Salakauppa」を手掛ける。2007年から伝統工芸との融合を試みるプロジェクト「Secrets」シリーズを開始。ミラノ・サローネやロンドン・デザイン・フェスティバルなど大規模な国際展にも参加。2010年にはフィンランドのデザイン分野で最も栄誉のあるフィンランド国家デザイン賞を受賞。 www.com-pa-ny.com



津田直 つだ なお

1976年神戸生まれ。世界を旅し、ファインダーを通して古代より綿々と続く、人と自然との関わりを翻訳し続けている写真家。文化の古層が我々に示唆する世界を見出すため、見えない時間に目を向ける。2001年より国内外で多数の展覧会を中心に活動。最近では、現代美術のフィールドを越えて他分野との共同制作や雑誌連載、講演会、特別授業も行う。主な展覧会に『SMOKE LINE-風の河を辿って』(資生堂ギャラリー、2008)、『エリナスの森』(三菱地所アルティアム、2018)、音楽家・原摩利彦氏との共作『トライノアシット』(太田市美術館・図書館、2022) などがある。2010年、芸術選奨新人賞美術部門受賞。大阪芸術大学客員教授。 <https://tsudanao.com>



海野光行 うんの みつゆき

日本財団常務理事。「次世代に豊かな海を引き継ぐ」をテーマに「海と日本プロジェクト」などの様々な事業を展開。国内外における、政府、国際機関、メディア、企業、大学、研究機関、研究者、NPO・NGO等とのネットワークを駆使してソーシャルインパクトを生み出し、地球環境問題をはじめ、海洋において国際的なイニシアティブを発揮できるよう、新しい時代を創るプロジェクト開発や戦略的パートナーシップの構築を進めている。